

肢体不自由児の障害特性を踏まえたICTを活用した指導方法や教材・教具の工夫 No.5

「タブレット型端末(iPad)を使用した朝の会の司会」

対象クラスに 在籍する児童の 実態	特別支援学校小学部 1年生 ・バギーに乗っている状態では、近くにいる教師に対して、バギーから降ろしてほしいことを身振りや発声で伝えることができる。 ・手が届く範囲の物をつかんで引っ張ったり、持っている物を左右の手に持ち替えたりすることができる。
教科(単元名) 領域	生活科 (朝の会をしよう)
使用した機器等	タブレット型端末 (iPad)、大型テレビ、フレキシブルスイッチ、iPad タッチャー
本単元で育てたい 資質・能力	【知識及び技能】 スイッチを押すと、朝の会の司会の言葉が流れることが分かり、教師の言葉かけを受けてスイッチを押し、司会を行う。 【思考力、判断力、表現力等】 あいさつや呼名など、スライドから流れる言葉を聞いて、身振りや音声であいさつをしようとしたり、呼ばれた人をみたり、返事をしたりする。 【学びに向かう力、人間性等】 スイッチを操作して、司会の役割を果たそうとする。

指導のポイント

発語のない、肢体不自由の対象児童が、ICT 機器を活用して、教師の支援を受けながらも本人の持っている力を最大限発揮しながら主体的に朝の会の司会を行うことを目指した。

プレゼンテーションアプリ (Keynote) で、朝の会のテキストと司会の音声、児童と教師の写真カード等を用意し、タッチすることでテキストと音声順番に展開できるようなスライドを作成した。フレキシブルスイッチと iPad タッチャーを iPad に接続し、司会の当番がスイッチを操作することで、一つずつ順番にスライドを進行させた (図1)。また、iPad の画面を大型テレビにミラーリングすることで、拡大提示して展開した。

ICT を活用した実践

<朝の会の次第>

- ①はじめのあいさつ
- ②あさのあいさつ
- ③なまえ
- ④ひづけとてんき
- ⑤よてい
- ⑥おたのしみ
- ⑦おわりのあいさつ

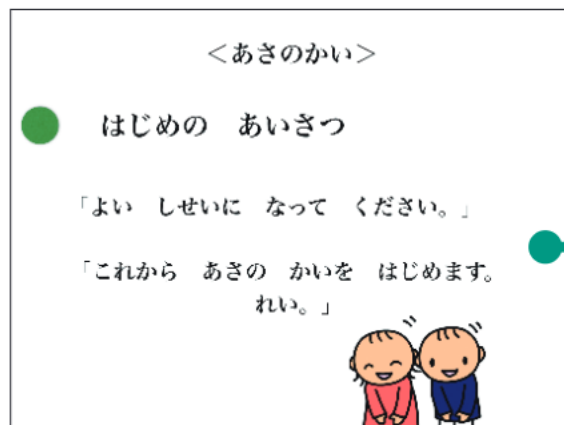


図1 朝の会で提示したスライド

プレゼンテーションアプリを活用して、スライドに司会の言葉のテキストとイラスト、呼名の際の個人写真などを、児童のスイッチ操作で一つずつ順番に提示されるようアニメーションを設定した。

機器のセッティング

画面にシール式のセンサー
スイッチを貼り付けます。



< iPad タッチャー >



< フレキシブルスイッチ >

iPad
タッチャー

スイッチ

誤操作を少なくするた
めに、iPad のアクセシ
ビリティ機能のタッチ
調整を行いました。

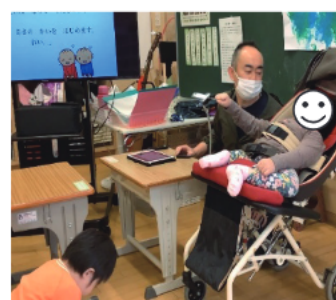


図2 操作している様子

児童の変容

小学部1年生であり、学校生活を送るにあたり、ほとんどの活動がはじめての経験であったが、繰り返し行う中で、触れると反応するということが分かり、スイッチを引っ張る動作が次第に少なくなっていた。また、司会の音声が続いている最中にスイッチに触れ続けている様子も減り、音声が終わってから、または教師の言葉かけを受けてからスイッチに手を伸ばすなどして進行する様子が多くなっていた（図2）。

さらには、音声と合わせて行う身振りも増えたり、会の進行の中で出てくる、「おはよう」「げんき」「はい」「ばいばい」「いた」の発声も出てきた。

本事例から学ぶICT活用のポイント

児童生徒の実態に合ったスイッチなどを組み合わせることで、コミュニケーションのツールとしてiPadを活用できるとともに、主体的な取り組みを引き出すことができる。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 肢体不自由教育研究班

本事例は、令和3年度「肢体不自由教育研究班」基礎的研究活動に基づいて作成されたものです。

事例提供者：八巻 裕（福島県立郡山支援学校）